



持続可能な社会を目指して 環境に優しい石膏ボードをつくる

チヨダウーテ株式会社は、1948(昭和23)年に厚形スレートを製造する会社として三重県四日市市で創業。その後石膏ボードの製造を始め、現在5工場体制で全国に石膏ボードを供給しています。2022年には、世界屈指の総合建材メーカーであるドイツのクナウフ(Knauf)グループに所属し、時代に合わせた製品開発と、石膏ボードの日本市場でのさらなる発展を目指しています。近年は地球環境問題など社会的課題に向き合い、CO₂排出量削減と廃材を利用したりリサイクル製品づくりを積極的に進めています。

廃石膏ボードのリサイクル

石膏ボードは日本では1921年に初めて製造され、防火性、遮音性、断熱性に優れ、寸法が安定しており施工もしやすいことから、建物の壁や天井に広く使われています。当社は1955年から石膏ボードの製造販売を開始し、さまざまな製品を開発してきました。

近年重点的に取り組んでいるのが廃石膏ボードのリサイクルです。戦後に建てられた建物の多くが寿命を迎えるにあたり、解体現場での石膏ボードの廃棄量は年々増加し、現在年間約150万トンの廃棄量が、20年後には300万トンになると言われています。埋立処分場の残余容量がひっ迫することは明らかです。その受け皿として廃石膏の原料化が課題となっていました。

当社は約10年前に(株)トクヤマと共同で(株)トクヤマ・チヨダジプサムを設立。独自の技術を用いて石膏ボードのリサイクル事業を展開しています。

100%廃石膏からつくられた 「サーキュラーせっこうボード」

昨年6月、世界初の100%リサイクル石膏を原料とした「チヨダサーキュラーせっこうボード」を発売し、ついにボードtoボードを実現しました。

製造時の熱源にはバイオマスボイラーを利用し、製造工場では再生可能エネルギー由来のグリーン電力を採用。その結果、CO₂排出量を大幅に削減し、石膏ボード製造時は実質ゼロカーボンを実現しました。見た目は変わりま



「サーキュラーせっこうボード」の採用事例、(株)東急Re・デザイン様「用賀オフィス改修プロジェクト」

せんが、当社の「せっこうボード」は原材料と製造時のCO₂排出量削減の両面から環境に配慮した材料となっています。

「サーキュラーせっこうボード」の発売当初の販売価格は1,325円/㎡でしたが、量産体制が整い、今年5月には1,100円/㎡に見直しました。最近では非住宅物件での採用事例も増えてきています。

また、当社と森ビル(株)、内装を手掛ける(株)船場、(株)トクヤマ・チヨダジプサムで連携し、廃石膏ボードの活用の共同実験も行っており、「サーキュラーせっこうボード」を使ったりサイクルのスキーム構築も進めています。

これらをきっかけに、100%リサイクルの価値が拡がることを期待しています。

機能性石膏ボードも多数用意

さまざまな機能を付加した石膏ボードも多数用意しています。

「さわやかせっこうボード」は珪藻土を含み調湿効果があり、高断熱住宅での結露を防ぎます。「スキュータムボード」は鉛を使用せずにX線を遮蔽。医療施設で採用されています。「耐力ボード」は耐力壁としても使用でき、木質材料の代わりに選んでいただく例も増えています。その他、グラスウール断熱材や曲面施工が可能なセメントボードなども取り扱っています。

当社では会社と社員の結びつきを大事に考えて、社員がやりがいを持って働けるように社員同士がコミュニケーションを取る時間を大切にしています。これからも課題と向き合い、ビジョンの実現に向けてチャレンジしていきます。



チヨダウーテ

www.chiyoda-ute.co.jp

石膏ボードの製造販売を中心に、その他建材の開発・製造・販売を行う。

本社事務所 三重県三重郡川越町高松928番地 TEL:059-363-5555(代) FAX:059-363-5553
東京支店 東京都台東区寿3丁目14番11号 蔵前チヨダビル6階 TEL:03-6635-1650 FAX:03-5828-2860
全国に製造拠点は5ヵ所(室蘭、千葉、四日市、貝塚、下関)、営業拠点は15ヵ所ある。